

今年度進路指導部の取組 ～地域とともに、保護者とともに～

熊本県立小国支援学校

1 地域とともに

本校高等部の作業学習における“ものづくり班”では、本校独自の木工製品・紙工製品の製作のほか、地域の事業所から依頼を受けた製品の製作を行っている。また、校内実習における教材も提供して頂き、生徒たちは責任感を持って作業に取り組むことの大切さを学んでいる。今年度は依頼をして頂いた地域の事業所の方をお招きし、自分たちが作った製品がどのような商品になり、どのように売られているのかを説明して頂くことで生徒の達成感をより高め、地域とのつながりをより強くしている。



小国町森林組合より依頼を受けた小国杉キューブは、小国杉エッセンシャルオイルとセットで販売されている。担当の方に来校して頂き、福岡や東京でも売られていることや、オイルのみも販売されているがキューブ付きのほうが高くても売れていることなどを説明して頂いた。説明書にはキューブの一部を本校で作っていることを記載して頂いている。

南小国町の豆腐料理店より依頼を受けて、校内実習で磨いた小国杉の板は、お店オリジナルの生ふりかけのパッケージとして使用されている。お店の方に実習報告会において頂き、生徒の実習報告に合わせて納品を行い、その場で商品の説明をして頂いた。



「小国支援学校高等部の皆さんが小国杉の木目を生かし丹念に磨き上げています」

2 保護者とともに

今年度進路指導部では、地域との連携の強化に加え、進路指導における保護者との連携の強化を目標の一つとした。高等部の実習報告会については、実施日をオープンスクールや授業参観の日に設定し、また、授業参観日を学部別に設定することで他学部の保護者も参加しやすい環境を作り、保護者へ案内した。進路研修については、これまで職員研修として行っていた福祉施設見学をPTA合同研修としてPTA会長名で保護者への参加を呼びかけ、4つの見学コースのうち2コースで保護者の参加があった。また、夏休みに行っているPTA除草作業の日の午後にPTA進路研修の時間を設け、プレジャーワーク株式会社の吉田周生代表を講師にお招きし、卒業後の生活において大切なことや、就労支援のあり方についてプレジャーワークでの実例を交えながら御講話頂いた。

児童・生徒の7割以上が隣接するサポートセンター悠愛から学校に通う本校にとって、保護者との連携の強化は特に重要である。今年度行った取り組みについても見直し、改善を行い、今後より一層の保護者との連携の強化を図っていきたい。



オープンスクールに合わせて行われた高等部の前期実習報告会には、廊下からの立ち見が出るほど多くの中学校関係者や保護者などに来て頂いた。質疑応答の時間には、発表者に対して「より詳しい実習内容」や「なぜその事業所を実習先に選んだのか」など、下級生の保護者から上級生に対して質問をされる場面が多く見られた。（写真は報告会で質問をする保護者）